

# 防犯 最新線

## 地道な活動続け13年目 次世代にバトンつなげたい

### 第3話

#### 日生梅森園自主防犯ぐるりん隊



巡回前に話し合う寺本さん(中央)ら＝梅森町新田で

「今日も不審者を入れさせないように見回りましたよ」

夏休みに入った8月初旬、同園集会所に「ぐるりん隊」の隊長・寺本金司さん(76)ら主力メンバーが集まった。

メンバー数は24人いるがほとんどが女性。毎月6・16・26日の夜、10人程が園内を歩く。寺本さんらが登録する2台の青色回転灯パトロール車は、昼夜を問わず走る。

同園は昭和40年代に開発が始まった。高齢化が進む中で、悪質な訪問販売に目を光らせている。3年前の話だ。園内で見慣れない一宮ナンバーの一台の軽トラックを見かけた。複数の高齢者宅をターゲットにしたリフォーム詐欺だった。寺本さんらは老人会の席で注意を呼びかけたところ、一人の女性が「ブロック塀が崩れている」と業者にだまされ、契約書にサインを迫られたことが分かり、被害を未然に防ぐことができた。

同じ頃、夜間パトロール中痴漢行為に遭った女性を助けるなど、成果を出している。

ぐるりん隊は、2003年の秋、園内で車上狙いの被害が軒並みにあったことをきっかけに、同年12月に結成された。以来、メンバーはほぼ変わらず平均年齢は70歳代に突入した。課題は「世代交代」だと口をそろえる。

古くから住む加藤雅完さん(74)は担い手不足の状況にあって、防災の活動も兼務。「若い人たちがもつと『思いやり』を持ってくれるとうれしい」と訴える。加藤立身さん(79)も「横のつながりをいかにして守っていきけるかが心配だ」と話す。

だが、明るい兆しもある。園内では毎年、春のお花見や秋の作品展などが開かれ、自治会を中心にしたコミュニティがある。集会所とクリーニング店では地域のサロン「ほっとカフェ」が始まり、「つながり」が芽生えている。自由に楽しく。寺本さんは、中高年や若年層にバトンをつなげようとしている。「青パトの登録の手続きはしんどいので行政側の支援も必

要。あれもこれでもではなく、実情に即した活動を息長く続けていきたいです」

活動に関する問合せは、寺本さん(052・802・2340)。



### 全力尽くし笑顔 県大会で健闘第6位

県消防学校(尾張旭市)で7月30日に開かれた「第61回愛知県消防操法大会」小型ポンプ操法の部で、市代表の折戸は第6位入賞を果たした＝写真。選手たちは消防や地元関係者らの支援を受けながら、「日進のためにつべんを目指す」という一心で勝負にのぞんだ。練習中のけがで選手が交代するアクシデントもあった。水嶋義弘団長は「数々の逆境をバネに、選手だけでなく日進市全体が一枚岩になりました。優勝も大事ですが、この入賞はそれ以上に重要な価値があります」とたたえた。折戸の県大会への挑戦は、3年ぶり10度目。全力を出し尽くした選手たちのすがすがしい笑顔が輝いた。

